

市役所新庁舎整備検討に関する有識者会議

1 目的

新庁舎の整備に当たり、専門的な観点から有識者の助言を求めるとともに、市民ワークショップ及びアンケート調査で得られた意見について検討・協議し、取りまとめを行う。

2 委員

氏名	所属等	分野	備考
新川 達郎	同志社大学 名誉教授	公共政策	会長
大塚 毅彦	明石工業高等専門学校 建築学科 教授	都市計画	副会長
本保 弘子	神戸女子短期大学 総合生活学科 准教授	建築計画	
八幡 充治	武庫川女子大学・短期大学部 施設部 部長 (元太子町経済建設部長)	その他	

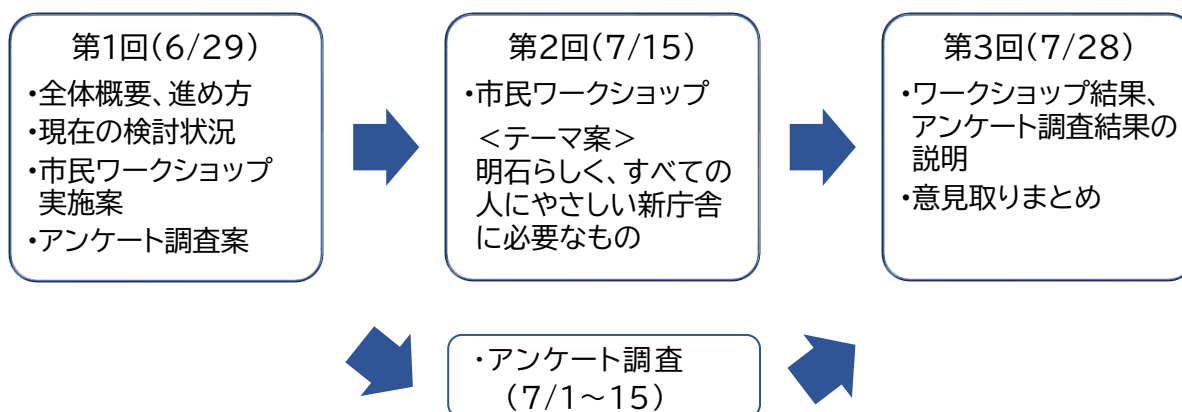
3 任期

第1回開催日から令和5年7月31日まで

4 回数

3回 ※うち1回(第2回)は、市民ワークショップ

5 全体スケジュール



6 新庁舎（設計内容）への意見反映（案）

※記載内容は「第3回 有識者会議（7/28開催）」で示したものの。

既に計画内容に反映している意見については、記載していません。

	意見等の概要	反映の方向性（案）
① 明石らしさ	<p>【第1回 有識者会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば、淡路の瓦や漆喰壁、135度(子午)線などで、らしさを表現してはどうか。 四方向に開いているバルコニーは、意匠の割にはコスト高ではないか。 <p>【市民ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンセプトが弱い。 他市事例を参考に、波や天文学館など、もっと明石らしいイメージを出してほしい。 SNS映えする場所を計画してほしい。 <p>【アンケート調査】</p> <p>Q 明石らしさから連想されるもの</p> <p>1位：海岸線や明石海峡大橋(171名)</p> <p>2位：子午線や天文学館(166名)</p> <p>3位：タコやタイなどの海産物(87名)</p> <p>4位：こども(子育てしやすいまち)(86名)</p> <p>5位：明石焼(玉子焼)(70名)</p> <p>6位：明石城(明石公園)(63名)</p> <p>7位：魚の棚商店街(大漁旗)(38名)</p> <p>8位：図書館(本のまち)(31名)</p> <p>9位：SDGs(19名)</p> <p>10位：源氏物語(16名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 明石らしさの表現については、頂いた意見を踏まえ、これまで提示してきた海を連想させるものに加え、東経135度子午線や明石城本丸の石垣や水平ライン・白漆喰、その他の明石の特徴を取り入れることで、海側とまち側の両方に開かれ、明石らしく、市民に親しまれる庁舎となるよう検討を進めていきます(別紙1参照)。 バルコニーについては、四方向に設置することで、日射遮蔽効果だけでなく、日常的なメンテナンスの際に仮設足場の設置が不要となり、メンテナンス費用を大幅に削減できます。なお、バルコニーの傾きによるコスト面への影響は、ほとんどありません。 その他の部分も含め、形状や材料等の仕様については、意匠性やイニシャルコストに加え、メンテナンスコストも含めたライフサイクルコストを比較した上で検討しており、今後も引き続き、ライフサイクルコストの低減を意識しながら、外観や内観、外構部分など、敷地全体で明石らしさを表現できるよう検討していきます。

	意見等の概要	反映の方向性（案）
② ユニバーサルデザイン	<p>【第1回 有識者会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あかしインクルーシブ条例の策定所管部署の意見も聞くべきである。 ・新庁舎ではハード面だけではなく、職員の考え方（ホスピタリティマインド）についても、リニューアルしてほしい。 ・授乳室と男性トイレの出口が近いのは、授乳室利用する女性にとって心理的負担があるのではないか。 ・来庁者駐車場1の優先駐車場部分について、すべての区画を車いす対応とするのではなく、「車いす利用者専用」と「それ以外で配慮が必要な方」用に分けて設置してはどうか。 ・車寄せについて、障害者専用のスペースを設置してほしい。 ・トイレについて、右利き左利き（片方に障害あり）それぞれに対応したトイレを設置してほしい。 ・知的障害者や精神障害者の方向けに、カムダウン・クールダウンルームを設置できないか。 ・点字ブロックは可能な限り設置してほしい。視覚障害者にとって一人で目的地まで行けることが重要である。 ・車いす利用者が窓口ロビーで待つ際に、どこにいたら良いかわからないという事例を見聞きすることから、あらかじめ待機スペースを計画してはどうか。 <p>【市民ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受付で点字対応できるようにしてほしい。 ・視覚障害者のための誘導用ブロックがあった方がよい。 ・執務室内も含め、車いす利用者が移動しやすい計画にしてほしい。 ・授乳室については、双子用ベビーカーも入りやすい計画にしてほしい。 	<p>反映の方向性（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン計画については、既に設計で反映済みである内容も含め、頂いた意見を可能な限り設計に反映できるように、庁内関連部署とも連携を図りながら検討していきます。 ・トイレと授乳室の配置について、男女のトイレを入れ替えた場合、女性用トイレの個室数が減少し、「適正な器具数の算定条件※」で定める器具の適正個数を満たせなくなることから、男女の配置は現計画のまま、下記の変更案を検討します（別紙2参照）。 <p>※空気調和・衛生工学会「衛生器具の適正個数に関する調査研究報告書」による</p> <p><変更案①></p> <ul style="list-style-type: none"> *授乳室と多機能トイレの配置を入替え <p><変更案②></p> <ul style="list-style-type: none"> *授乳室と広めトイレ、SK(スロップシンク)の配置を入替え

	意見等の概要	反映の方向性（案）
③ 市民利用エリア	<p>【第1回 有識者会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議場の市民開放は良いアイデアなので、多目的スペースとの連動性や用途についても検討してほしい。 ・ 1階の市民利用エリアについて、例えば、自由に落書きできる壁や可動式パーティションの設置など、しつらえや什器についても工夫してほしい。 ・ 食堂（レストラン）については、個性のある店舗を設置してほしい。 ・ 6階の市民利用スペース等の運営・管理について、市民が関わってもらう（直接行う）仕組みができないか。 ・ 美術品の寄贈や地元の絵画などの展示を想定し、あらかじめ美術計画を作成しておいた方がよい。 <p>【市民ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食堂を広げて、展望テラスでも飲食できるようにしてほしい。 ・ 食堂の配置場所が6階は遠いので、もう少し下の階（1階）にあった方がいい。 ・ 食堂は景色が良い6階がいい。 ・ 子ども向けの遊び場（例：積み木がたくさんある部屋）を計画してほしい。 ・ 市民が入りやすく、また、子どもだけでも訪れたい仕掛け（例：キッチンカーや祭りなど）があるといい。 ・ 議会を傍聴席からだけでなく、通路等からも見たり聞いたりできる仕組みがあってもいいのではないか。 <p>【アンケート調査】</p> <p>Q 市民利用エリアに求める設備・機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 1位：飲食関連（119名） 2位：育児・子育て関連（72名） 3位：展望テラス（49名） 4位：図書・読書関連（38名） 5位：自習・学習関連（36名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民利用エリアについては、子ども向けスペースの拡充・充実、食堂以外の場所で飲食できるスペースの確保、議場前の通路や多目的スペース等から議会を傍聴できる仕組みなど、頂いた意見を参考に、供用開始後の維持管理方法も含めて、具体的な用途や仕様について検討していきます。 ・ 食堂の階配置については、ワークショップにおいて、低層階（1階）への配置を求める意見と6階への配置を求める意見が両方ありましたが、現計画のまま6階とし、食堂や多目的スペース、展望テラス等が連動し、また一体的な利用が可能となるよう検討し、魅力的な眺望を活かした、訪れたい市民利用エリアとなるよう検討していきます。

	意見等の概要	反映の方向性（案）
④ 防災（災害対応）	<p>【第1回 有識者会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構造計画について、工法の選定理由や安全性について説明してほしい。 <p>【市民ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津波等による浸水を考えた場合、窓口部門は上層階に配置した方が良いのではないか。 ・ 駐車場は最低でも2階建てとし、災害に備える必要がある。 ・ 大規模災害時に新庁舎は安全だが、周辺は浸水する可能性があるため、職員の参集や活動可否についても検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災（災害対応）について、新庁舎は、南海トラフ地震等が発生した場合にも機能を維持できるよう、免震構造（1階床下に免震層を設置する基礎免震工法）を採用するほか、浸水対策として、外構や1階床面の高さを嵩上げし、免震層への万が一の浸水に備え、排水ポンプを設置する計画です。 ・ 新庁舎は、災害時の拠点であると同時に、行政（市民）サービスの拠点でもあることから、窓口部門については、1・2階に集約して配置し、災害発生時には、職員が避難を誘導します。 ・ 駐車場については、暫定的に平面駐車場で計画していますが、今後、明石港東外港地区との一体的な土地利用について県と協議する中で、共用の立体駐車場の整備を検討していきます。

	意見等の概要	反映の方向性（案）
⑤ 環境・エネルギー	<p>【第1回 有識者会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の電力値上げや SDGs の観点から自然エネルギーを更に高水準で取り入れるべきではないか。 ・新庁舎内にはごみ箱を設置しないなど、ごみゼロ市役所を目指してほしい。 <p>【市民ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーや PPA などの手法を利用し、ZEB Ready ではなく ZEB を実現してほしい。 ・太陽光発電による発電量が 100kW では少ない。公用車駐車場や空調機器の上部、庁舎の壁面、バルコニー、窓ガラス部分にも太陽光パネルを設置してほしい。 ・太陽光パネルをもっと設置すれば、非常用発電機は不要になるのではないか。 ・電気自動車を導入すれば、ガソリン代を削減できるとともに災害時にも活用が可能である。 ・アクロス福岡のように、建物緑化を部分的にでも取り入れることができると面白い。 ・断熱性や窓について検討すれば、空調機器容量を2分の1にできる。 ・水車による小水力発電を導入してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・エネルギーについては、頂いたご意見を踏まえ、太陽光発電設備を基本設計からさらに増やし、合計 250kW とします（別紙3参照）。 これにより、発電規模は、全国の庁舎の中でトップレベルになります。 また、PPA については、活用することで新庁舎に対する国からの交付税措置を上回るメリットがあるかどうか、引き続き検討します。 なお、庁舎壁面や窓ガラスへの太陽光発電設備の設置は、費用対効果を考慮して採用を見送っており、災害発生時に悪天候が続く場合にも電源を確保するため、非常用発電機を設置します。 ・公用車については、将来的な電気自動車の導入を見据え、電気設備を計画しています。なお、現時点では、災害時に電気自動車やハイブリッド車等を配置し、避難所の電力を確保する協定をトヨタグループ6社と結んでいます。 ・更なる省エネルギー化や自然エネルギーの活用について、頂いたご意見を踏まえながら、イニシャルコスト及びメンテナンスコストも含めたライフサイクルコストを考慮した上で、引き続き検討を進めます。

	意見等の概要	反映の方向性（案）
⑥ エリア全体の土地利用	<p>【第1回 有識者会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽計画については匂いを感じられる工夫をしてほしい。また、犬を連れて利用できるようなスペースを検討してほしい。 ・ 実施設計段階に入っているため、難しいと思うが、新庁舎2階と市民会館をデッキで結んで、海側への安全な徒歩ルートを確保するなど、将来的なランドデザインを踏まえた設計を行ってほしい。 ・ 新庁舎整備場所のロケーションは本当に素晴らしいので、例えば海だけを見て過ごすようなスペースを設置してほしい。 <p>【市民ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に緑（緑地）が少ない。 ・ 敷地内に風や水（噴水、水車）を取り入れてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エリア全体の土地利用について、明石港東外港地区との一体的な開発も視野に入れながら、エリア全体で、緑を感じられる空間の拡充や犬を連れて楽しむことができる遊歩道の整備等についても検討していきたいと考えています。 ・ 植栽計画については、市の緑地環境や建設敷地の周辺環境等から樹種を選定し、国道沿いや海への動線、通学路など、エリアごとにテーマを設定し、来庁者だけでなく、多くの市民が身近に緑を感じられる計画とします。 ・ 市民会館や海とのデッキでの接続については、現段階から検討（計画内容を変更）することは困難ですが、庁舎内の南北エントランスの軸線を海までまっすぐに通すことで、まちから庁舎、また庁舎から海にアクセスしやすい計画とします。

	意見等の概要	反映の方向性（案）
⑦ その他・全体に関すること	<p>【第1回 有識者会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口フロアで窓口が向かい合わせになっている。執務スペース確保のため、理解はするが、来庁者が職員から見られないスペースの確保についても検討してほしい。 ・全体的に、空間に抜けがない設計となっているので、どこかに抜け感を出してほしい。 ・庁舎内の掲示物については、許可制を導入するなど、ルール設定が肝要だと考える。 ・市民ワークショップについては、当日ももらった意見がどのように取り扱われるのか、どのように反映されたのかについて、しっかりと周知・広報を行ってほしい。 ・新庁舎完成後も市民参画（例：アフターワークショップ）を検討してほしい。 <p>【市民ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民センターで受付可能な手続きを充実させることができれば、新庁舎はさらにコンパクトにできるのではないかと。 ・オンラインなど、来庁しなくても相談できる仕組みを導入してほしい。 ・市役所前へのバスの便数が少ない。 <p>【アンケート調査】</p> <p>Q 新庁舎の窓口に求める取組は？</p> <p>1位：書かなくてよい窓口(165名)</p> <p>2位：おくやみコーナー(117名)</p> <p>3位：番号案内モニター等(113名)</p> <p>Q 市民センター等で取り扱ってほしい手続きは？</p> <p>1位：オンライン化の推進(23名)</p> <p>2位：保育所・保育園関連(17名)</p> <p>3位：障害福祉関連(8名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口については、庁舎のスリム化に取り組む中で、市民の利便性や配置の効率性を踏まえて向かい合わせに計画しており、視線への対応については、可能な限り待合ロビーの幅を広く確保することや、受付後の待ち時間を1階や6階の市民利用エリアで過ごすことができる工夫（案内ディスプレイの設置、お知らせメール等）を検討します。また、オンライン申請の拡充など、新庁舎（本庁舎）に来なくてもよい仕組みを引き続き検討します。 ・空間の抜け感については、1,6階において、南北にまっすぐ通した通路を計画し、海まで続く軸線や眺望を活かすことができる計画としています。さらに、市民が主に利用するエリアについては、極力行き止まり通路を作らない計画とし、庁舎面積をコンパクト化しながらも、抜け感のある計画とします。 ・今後の市民参画については、実施設計や建設工事期間中だけでなく、供用開始後のアフターワークショップも含め、可能な限り市民意見を反映しながら進めていけるよう検討していきます。

7 意見反映(案)に対する有識者意見(会議まとめ)

① 明石らしさ

- ・明石らしさの表現については、シンプルに海と水平線を大切にしたいデザインが求められていると思う。外観(バルコニーの傾斜と屋根の跳ね上げ)については改めて検討し、内装については、まちの特性や明石らしさを踏まえつつ、シンプルなものとしてほしい。

② ユニバーサルデザイン

- ・ユニバーサルデザインについては、実施設計段階で検討するものや将来的に(使用しながら)改善していくものがあることを踏まえて検討し、トイレや授乳室については、近年のコンセプトや在り方の変化も含めて配置や仕様を検討してほしい。

③ 市民利用エリア

- ・1, 6階の市民利用エリアについては、市民にとって魅力的で使いやすいものとなっているか、引き続き検討していく必要がある。

④ 防災(災害対応)

- ・防災面については、メンテナンス性や代替性のあるシャフトスペースの確保や建物全体の空気循環をどのように考えていくかなど、防災機能と環境性能を一体で向上させることで、維持管理のしやすさにも繋がっていくのではないかな。

⑤ 環境・エネルギー

- ・環境への配慮については積極的に検討してもらっている。次のステップとして、明石港東外港地区再開発のタイミングで改めて検討してもらえれば良い。また、将来的には様々な自然エネルギーの活用について検討の余地がある。

⑥ エリア(新庁舎・東外港地区)全体の土地利用

- ・エリア全体の土地利用については、市民会館や明石港東外港地区、海や駅方向からのアクセスを含めて考えていく必要がある。現時点で具体的な計画が立てられないことも確かだが、市としてランドスケープのイメージや展望を持ち、その中で新庁舎の外構や植栽について検討することが求められる。

⑦ その他・全体に関すること

- ・執務室については、DXや働き方改革など、今後の行政サービスの変化を見据えて、自由度の高い設計としておかないといけない。また、議場については、議会の意向も踏まえながら、柔軟な活用が可能になるよう、議場の在り方や仕様等について検討していかないとけない。
- ・第1回有識者会議、ワークショップ、アンケートで出た様々な意見を踏まえて、市民にとって快適な施設となるよう、今後の実施設計で具体的な仕様を検討してほしい。

「まちと海をつなげる庁舎」 「海峡のまち」 「時のまち」 「歴史のまち」 で明石らしさを表現

■「海峡のまち」「歴史のまち」を表現する外観・内観計画



「海側（南側）の外観」

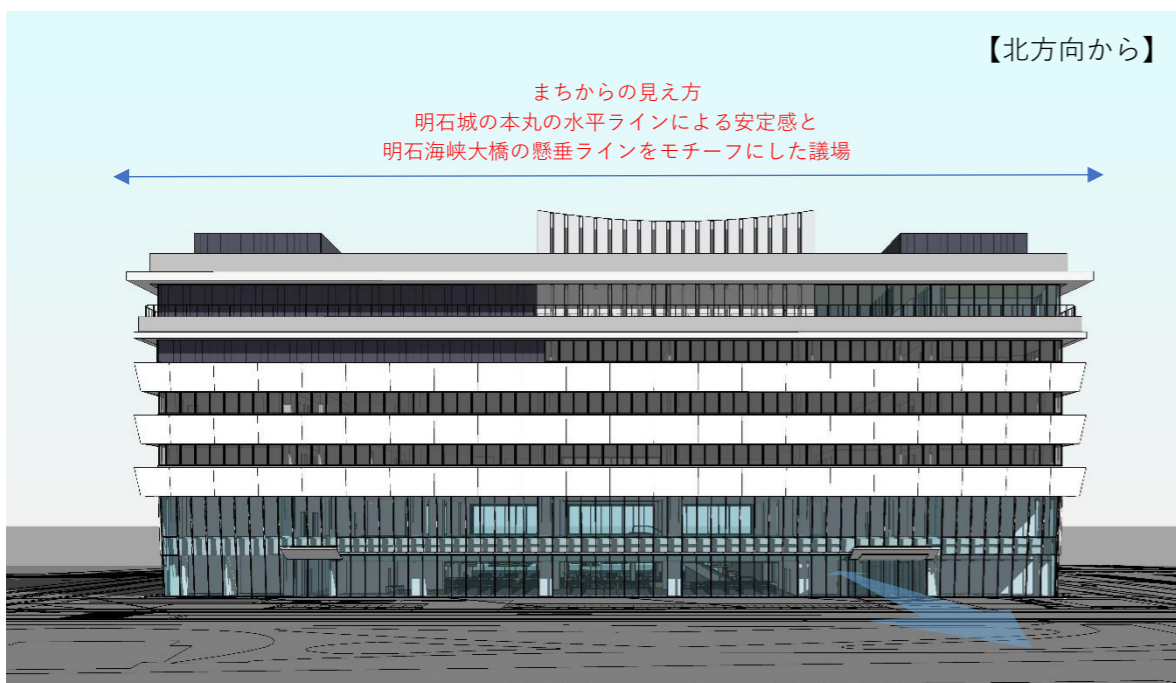
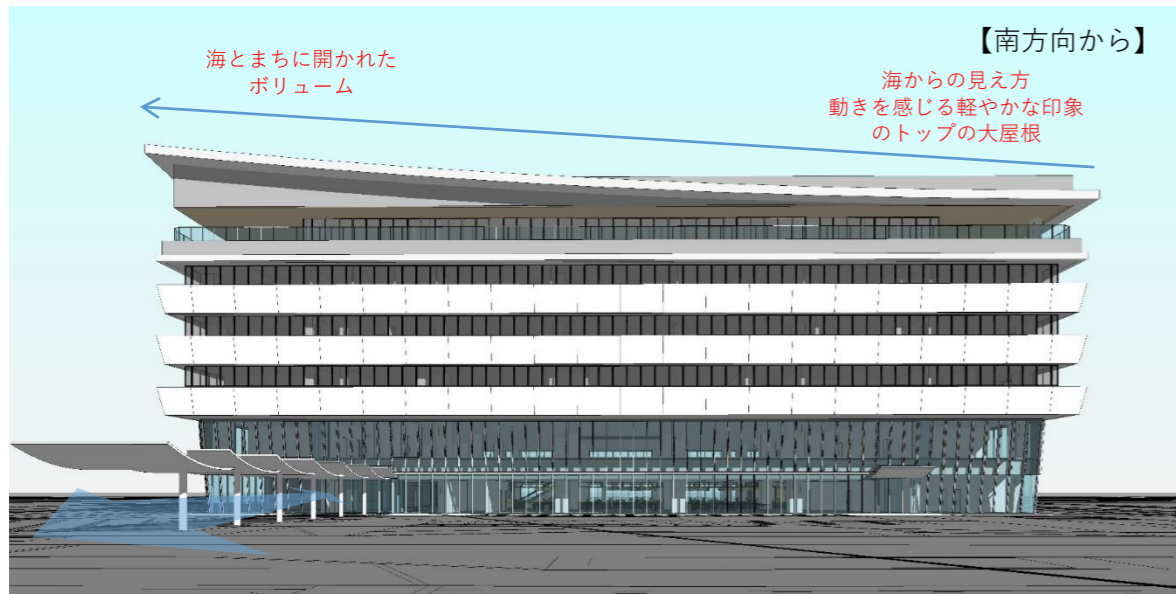
明石海峡は古くから畿内の入り口として、多くの船が行き交う風景は現在も変わらず、穏やかな水面に船の白い波が残る景色は明石らしい風景と言える。海からの表情については、こうした風景に溶け込み、呼応するよう、白いラインを強調した動きを感じる軽やかな屋根とし、全体として未来へ進んでいく船のようなイメージとする。

「まち側（北側）の外観」

明石城は、明石のまちの発展を古くから見守ってきた、市の玄関口であるJR明石駅前顔の顔と言える。まちからの表情については、明石城本丸の特徴的な水平ラインをモチーフに、あらゆる災害にも耐える新たな市の居城としての安心感を表現し、明石海峡大橋の懸垂ラインとワイヤーの垂直ラインを議場のボリュームにデザインで取り入れる。

「内観」

1階エントランス空間に、「明石海峡の穏やかな海や風」を表現した軽やかな天井、「明石城の城壁の積層した石、漆喰」を表現した壁、その他明石の特徴を取り入れることで明石らしさを表現する。

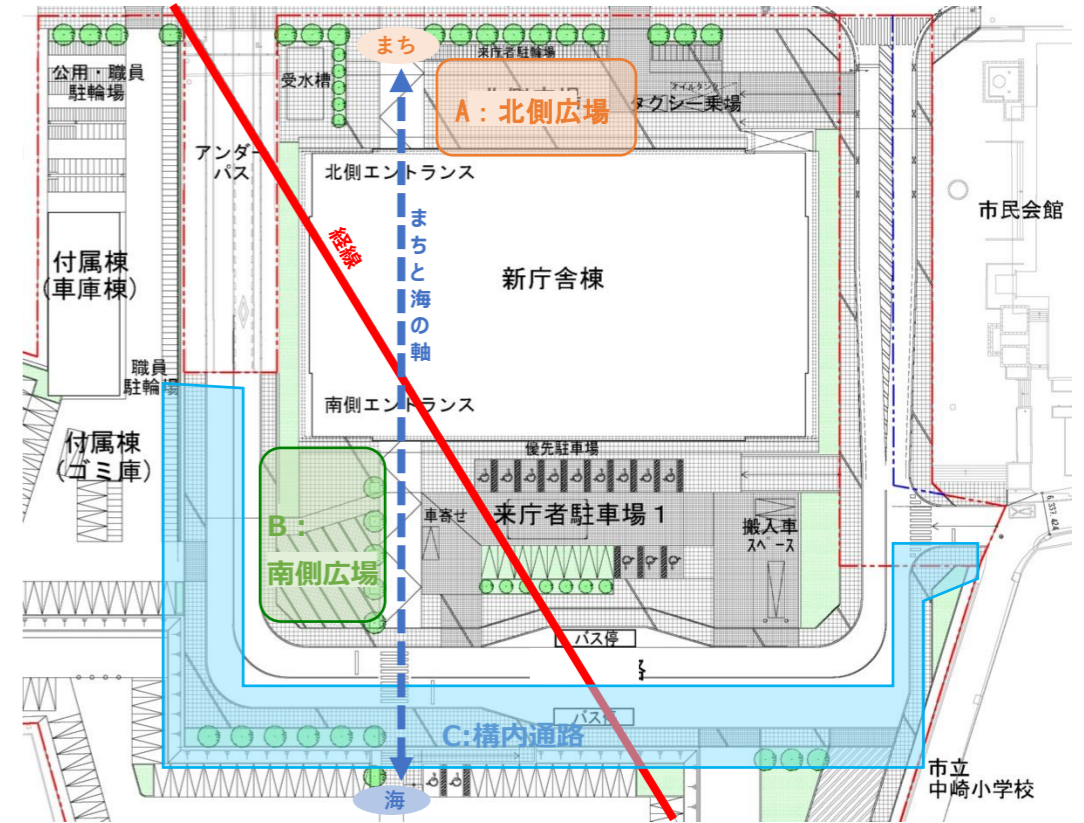


※建物屋上、議場屋根についてはフラットに設計（周辺の意匠部分で動きを表現）

※現時点のイメージであり、詳細は今後決定

■時のまちを感じさせる「時のまち明石」

標準時子午線である東経135度の経線が走る「時のまち明石」。まちのシンボルにもなっている経線を敷地全体のデザインモチーフとし、敷地内の随所にテーマを設定することで、経線を様々な形で表現します。



A:北側広場「時のまち × 市民の愛着」

北側広場は自転車の乗り入れや多方向からのアプローチが考えられるため、維持管理がしやすいインターロッキング舗装をベースとします。その中に経線に沿う形で、市民参加型のワークショップ等で製作できる建材を用いることで、市民の思い出、愛着に繋がり、共に作り上げる「時間」を共有できる空間を検討します。



B:南側広場「時のまち × 市民の憩い」

南側広場は市民を迎え入れるポケットパークとして、憩いを感じられる植栽を施します。経線をイメージしたピッチの細かいライン上に芝等の植栽を施し、ファニチャーと共に市民が憩える空間を検討します。

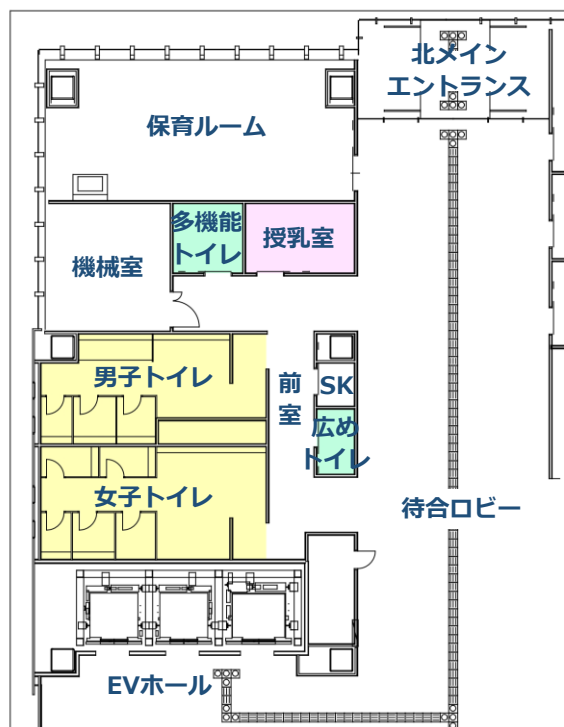


C:敷地内通路「時のまち × 子どもたちの学習」

敷地内の通路は中崎小学校の登下校ルートにもなることから簡易な日時計の設置や経線ラインに経度を刻印するなど、日ごろから「時のまち」に触れられる空間を検討します。

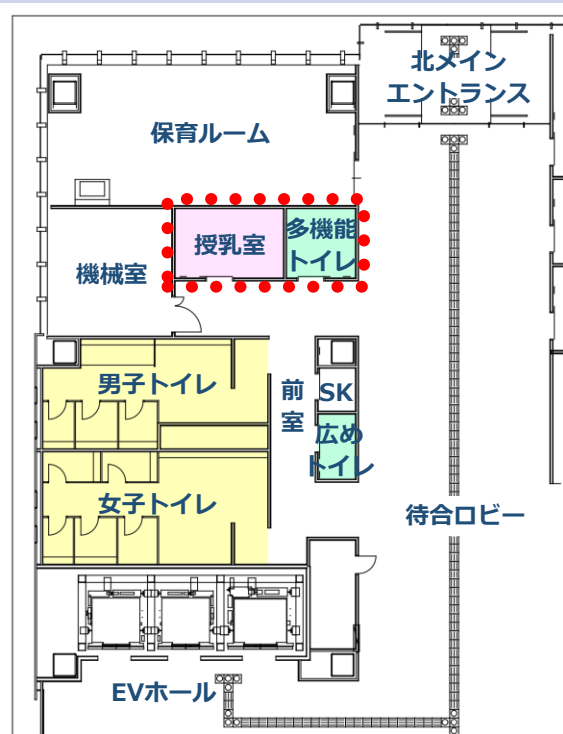


現在案



- 多機能トイレや、性別等に関わらず様々な人が利用できる広めトイレの配置が男性、女性トイレのどちらかに偏らない。
- トイレ前室空間を確保することで、広めトイレへの出入りが人目に触れにくくなる（広めトイレは性別等に関わらず誰でも利用できるトイレであり、出入口はできるだけ人目に触れない場所に計画している）。
- 授乳室と男性トイレの出入口が近い。

変更案①



- 多機能トイレや、性別等に関わらず様々な人が利用できる広めトイレの配置が男性、女性トイレのどちらかに偏らない。
- トイレ前室空間を確保することで、広めトイレへの出入りが人目に触れにくくなる（広めトイレは性別等に関わらず誰でも利用できるトイレであり、出入口はできるだけ人目に触れない場所に計画している）。
- 授乳室への出入りが男性トイレから見えにくくなる。

変更案②

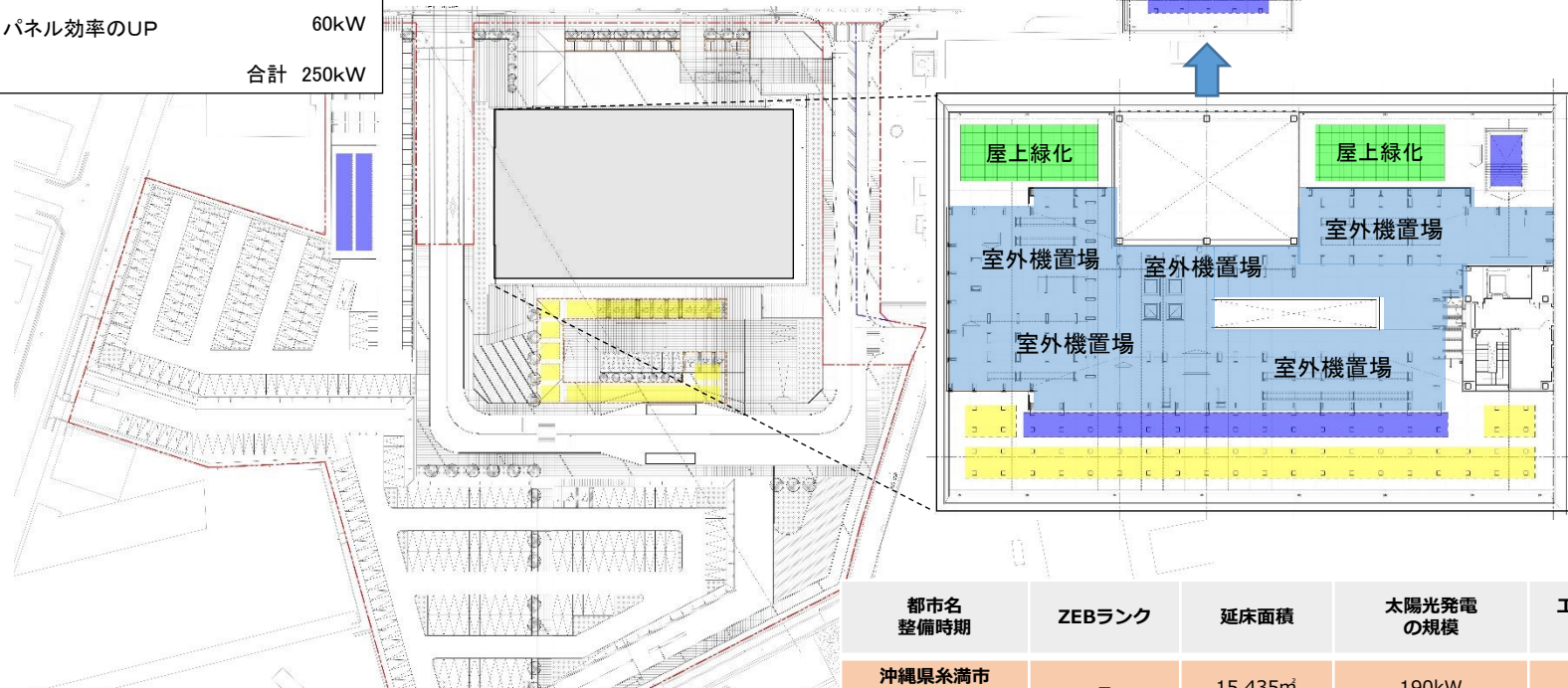


- 多機能トイレや、性別等に関わらず様々な人が利用できる広めトイレの配置が男性トイレ側となる。
- トイレ前室空間が確保できないため、広めトイレへの出入りが人目に触れやすい。
- 授乳室への出入りが男性トイレ側から見えない（待合ロビーからは見えやすくなる）。
- 男性が授乳室を利用しにくい。
- 男性と女性で、トイレの出入口までの動線（通路）が別れる。

太陽光発電設備の計画見直しについて

太陽光発電の設置範囲

 基本設計段階での設置範囲	100kW
 ワークショップでの意見を踏まえてさらに増やす範囲	90kW
パネル効率のUP	60kW
合計	250kW



ZEB (ゼブ) の種類	内容	新築庁舎での事例 (2万㎡以上)	エネルギー削減率
ZEB (ゼブ)	省エネと創エネにより、消費エネルギーを100%以上削減	なし	-
Nearly ZEB (ニアリー・ゼブ)	省エネと創エネにより、消費エネルギーを75%以上削減	なし	-
ZEB Ready (ゼブ・レディ)	省エネにより、消費エネルギーを50%以上削減	明石市 兵庫県伊丹市 秋田県秋田市	59% 56% 53% (実績値)
ZEB Oriented (ゼブ・オリエンテッド)	省エネにより、消費エネルギーを40%以上削減	大阪第6合同庁舎 兵庫県神戸市 など	-

都市名 整備時期	ZEBランク	延床面積	太陽光発電 の規模	エネルギー 自給率
沖縄県糸満市 2002年春竣工	-	15,435㎡	190kW	12%
埼玉県深谷市 2020年5月竣工	-	14,612㎡	150kW	確認できず
愛媛県西条市 2014年2月竣工	-	9,448㎡	120kW	7.4% (実績値)
岐阜県各務原市 2021年8月竣工	ZEB Ready	16,802㎡	100kW	10%
佐賀県小城市 2012年8月竣工	ZEB	6,867㎡	500kW (駐車場部分)	100%
明石市	ZEB Ready	20,545㎡	合計 250kW (庁舎) 150kW (付属棟) 35kW (駐車場) 65kW	12%